

# 義太夫

義太夫協会会報  
第65号

平成9年8月1日  
社団法人 義太夫協会発行  
〒104 東京都中央区築地  
1-13-5 松竹会館内  
TEL (3541)5471

## 天の啓示

社団法人義太夫協会会長

景山正隆

平成八年度の義太夫協会の足跡の中で何よりも喜ばしいことは、竹本朝重さんの紫綬褒章受章、竹本越道さんと鶴澤友路さんの第一六回伝統文化ボーラ賞特賞受賞、竹本駒之助さんの第二六回モービル音楽賞受賞、豊澤雛さんの地域文化功労者(大阪府)としての文部大臣表彰、鶴澤津賀寿さんの芸術選奨新人賞受賞というように、まことに意義の深い慶事が相次いだことでしょう。

義太夫ばかりでなく邦楽全般を取り巻く今の社会環境が決して順境とはいえない状況の中で、同じ年度にいくつもの慶事が重なったことはかなり稀有なこととして受けとめる必

要があります。これは、義太夫協会の活動をますます促進せよという天の啓示かも知れません。私たちは大いに自信をもって活動を展開してゆくべきでしょうし、伝承と振興のためにより適切な後進の育成が図られるべきでしょう。

現在義太夫協会の正会員は、男性二六名(竹本二四名・竹本以外二名)、女性六〇名、合計八六名となっています。これに対して、義太夫協会が社団法人の認可を受けて間もない昭和四七年の名簿を見ますと、男性三五名(竹本一九名・竹本以外一六名)、女性六四名、合計九九名となっています。

要があります。これは、義太夫協会の活動をますます促進せよという天の啓示かも知れません。私たちは大いに自信をもって活動を展開してゆくべきでしょうし、伝承と振興のためにより適切な後進の育成が図られるべきでしょう。

四半世紀の時を隔てて、若干減少したことは止むを得ないとしても、この数値は、厳しい環境の中でも、世代交代の中で後継者の育成が着実に図られてきたことを物語っています。特に竹本の正会員が増加しているのは嬉しい限りです。これに対して、竹本以外の男性が一六名から二名に激減しているという冷厳な事実を、義太夫協会の源流が江戸時代中期の江戸因講で、本来は男性のみの三業(太夫・三味線・人形遣い)の団体であったことと思いが合いませんと、義太夫節の伝承がいかに厳しいものであるかということを感じずにはいられません。

伝承といえば、先の会報に書きましたように、私は、伝承のための具体的な対策を立てるために、義太夫協会と文楽以外の全国義太夫人口の実態調査の必要なることを提言しておりましたが、この程、文化庁の星野絃氏の尽力により、財団法人沖永文化振興財団より助成金をいただくことが内定しまして、いよいよ調査を実施する段階に漕ぎ着けました。調査の結果がどのようなものになるか、予断は許しませんが、実態を把握することによって、伝承のための協力関係を目指すへ義太夫節ネットワークづくりが可能になるのではないのでしょうか。そうしたネットワークによって、全国的な規模での義太夫節の伝承と発展のための具体策が立てられるのではないかと思います。

# 人形の首かしら

社団法人義太夫協会監事

佐々木 明郎あき

大正末期の極く幼い頃から浄瑠璃・カブキ（大抵院本物）に親しみ始め、平成の今日に及んでいる。この間、尋常小学校児童になった満州事変前から「活動写真」、上海事変・五一五事件頃から「映画」、旧制中学校生徒徒になった三二六事件・阿部事件頃から内外ベストテン（少なくともセカンドテン）クラスの映画漁りをしていたが、シナ事変勃発後、文楽の分裂、新義座結成が契機となり、また昭和一五年の溝口健二作品「浪花女」は、カメラワークは一部の人びとの不評を買ったものの、私は人形の美に強い衝撃を受けた。（土門拳の影響もあった。）

大東亜戦争（所謂太平洋戦争）の初期には学生として学校の自動車クラブに入ったが、他に同好の士と諮って古典劇研究会というサークルを作り、舞楽と能・狂言、人形浄瑠璃、大カブキ・小芝居・新派、新劇・映画の四班に分け、それぞれの責任者を置き、毎日のように午後は劇場・寄席等に出かけた。教練の無い日は紺緋（夏は紺か麻）の着物に袴という戦後の人には信じられないような、暢気で悠長な面もある時代であった。翌年、のちに映画評論家になった荻昌弘君が入会した。

東京の男女玄義だけでなく、文楽の引越興行は必ず聴きに行った。演舞場の楽屋では当時若手の野沢錦糸さんが三味線について丁寧な解説してくれた。人形の説明は吉田文作改め桐竹亀松さん等が、また、ときには紋十郎師が口角泡を飛ばして熱心に話してくれた。

その頃、元伯爵の柳原義光さん等の会で、東京の女義や、素義の斎藤さん等の語りにより、嘗て宝塚で文楽の桐竹門造師に仕込まれた乙女文楽も、日本橋クラブ等で屢々活躍した。人形は、桐竹梅子・静子・智恵子・信子（五十音順）等の人びとが遣っていたが、抜群の芸を發揮していたのは梅子さんで、「と、芸については紋十郎にいさんにも譲れない。」という気魄が、立役・女方・敵役・チャリ、すべての舞台上に漲っていた。（二四年に義太夫協会が結成されたとき、教室女子部で一人遣の人形を始めようというので、岩本町で蒲団屋を営んでいた梅子さんに手ほどきして貰ったが、本格的に始めないうちに静岡の方へ転居された。）

こういうことで、文楽や乙女文楽の人形の首、更に目白の中山泰昌さんや亀戸の鈴木はなさん等の人形と、沢山の首を観る機会が多

かった。最も理智的で美しいのは当時の若手四代目大江巳之助さんの首であったが、何ともいえず冷い感じで、好きになれなかった。昔の天狗久や天狗辯のほうだが、泥臭くて野暮ではあっても温かみがあった。（宇野千代さんも同意見だった）

ところが、二一年に復員し再び文楽を聴きに行くようになり、久しぶりに巳之助さんの首を観ると、昔ながらの理智的な美しさは保ちながらも、昔は無かった温かみのある親しみもてる首が作られていた。素玄の太夫・三味線にも、境遇の変化によって「情」の表現が為されるようになる人がある。（稀には、「情」を失ったといわれた例も無いではない。）

戦中戦後、巳之助師にどんな人生があったか知らない。過般この名人を失ったことはたいへん残念であり、悲しいことではあるが、晩年にこういう首を作った師は、人形だけでなく、人生でも名人だったのでなからうか。御冥福を祈るのみである。合掌。

（追記）荻君は、演劇映画一切御法度の家庭の出のため、砂漠が水を吸う如く貪欲に芸能鑑賞にのめり込み、素女・二世綾之助・清一さん方以下、中堅（今の長老）の芸能、私と芸に耳を傾けた。昭和一八年秋、文科系学生の徴兵猶予制が廃止され、私は盛岡の戦車部隊に入り翌年、予備士官学校（戦車学校）で関西出身の福田定一君等と同期となったが、彼即ち司馬遼太郎君は戦後、俺は芸能について全く勉強しなかった、といっていた。



6月8日 於お江戸日本橋亭(二日間)  
6月22日 女流義太夫演奏会「桂川連理柵」  
於国立演芸場

22日 新人正会員オーディション  
於国立第二研修室

6月25日 常務理事会  
於文明堂

6月30日 普及部会  
於文明堂  
7月2日 総会に関する監査

7月4日 研修部会  
於松竹会館会議室

7月11日 編集部会  
於協会事務局

7月12日 義太夫協会通常総会 平成8年度  
事業報告・収支決算報告、平成9  
年度事業計画・予算案を審議、原  
案通り可決した。於松竹しゃとー  
編集部会  
於協会事務局

7月16日 吉川英史最高顧問米寿記念出版祝賀会  
2月11日

あいにくの空模様にもかかわらず、会場は  
ラッシュアワーなみの混雑で熱気むんむん。  
多士済々の顔触れに、先生もいつものワング  
ルスマイルで応えていらっしゃいました。

平成八年度豊澤仙廣賞は秋山寿美子さ  
んに贈られました。三年間事務局職員と  
しての責務を、滞りなく果たして下さい  
ました。その労に対しての授賞となりま  
した。

平成八年度(第四十七回)芸術選奨文部大臣  
新人賞(古典芸術部門)

鶴澤津賀寿受賞

受賞おめでとうございます。

ありがとうございます。

知らせを受けた時はどんなお気持ちでし  
たか?

「候補が上がっています」という連絡を  
頂いてから内定まで一ヶ月以上あったので  
いつの気持ちをお話しすべきか迷いますけ  
ど、「候補」の電話を頂戴した時は大それ  
たというか、関係ない世界の話が自分の所  
へ落っこちてきた感じがしました。

駒之助副会長長門下では、悠美さん、津賀  
寿さんとお二人、芸術選奨を頂いたことに  
なりますね。めったにないことだと思いま  
す。師匠はどんなふうにおっしゃっていら  
っしゃいましたか?

「候補」の電話は、実は稽古場で師匠と  
二人きりで稽古をして頂いたあと、PHS  
のスイッチを入れたとたん、家からかかっ  
て来て「文化庁から電話」というので、こ  
ちらから師匠と一緒におかけしたんです。  
「文化庁」というので師匠は「悠美ちゃん  
が頂いた賞かな?」とソワソワして、「早  
くかけなさい、早く早く」と言っ下さっ  
て、私がかけるとそばから「そう?」とい  
う顔でずっと見て下さり、切ったとたん  
「やっぱりそうだった?」と飛びつくよう  
に聞いて下さいました。そして帰りの別れ

ぎわ「私の思いが通じた。こんな嬉しいこ  
とはないよ!!」とステップを踏むようにし  
て駅の階段を上っていかれました。

最後にこれからの抱負を一言。

津 賞を頂いて変わるの、まわりのごく一  
部の方々の目だけだと思おうので、今までど  
おりについつつ努力していきたいと思いま  
す。簡単に「やめる」とか「休む」とか言  
えなくなっちゃいましたね(笑)。

☆

故鶴澤重輝師の志を継ぎ、たゆまず精進し、  
女流義太夫定期演奏会その他の公演での活躍  
はめざましいものです。この度の受賞は、後  
を行く若い人達の励みとなり、義太夫界へ活  
力を与えました。改めてお祝い申し上げたい  
と思います。

【鶴澤津賀寿略歴】

昭和58年 義太夫教室36期受講

59年 竹本駒之助に入門

同年 (故)野澤錦糸に師事

61年 鶴澤津賀寿となり、本牧亭で初舞  
台

同年 (故)鶴澤重輝の預かりとなる。

平成3年 芸団協助成新人奨励賞受賞

〈お願い〉

稽古場が不足しています。どなたか情報を  
お持ちの方(なるべく安く)交通の便のよい  
ところ(…)協会までご一報ください。和室・  
洋室を問いません。

平成八年度芸団協助成新人奨励賞

竹本駒輝受賞

平成八年度芸団協助成新人奨励賞は竹本駒輝(竹本駒之助門下)が受賞、3月23日に演芸場にて受賞記念公演を行いました。駒輝は義太夫教室第41期出身、めきめき力をつけてきた期待の星です。誰からも好感を持たれる人柄でもあり、今後の活躍が楽しみです。

国選択民俗無形文化財指定祝賀会

八王子車人形西川古柳座

5月20日

大変にぎやかなパーティーでしたが、残念ながら前家元(現柳峰師)が体調をくずして出席できず、皆様へのご挨拶では奥様が代わりに師の書かれた手紙を声をまつまらせながら読まれました。

また襲名披露で柳峰師が創られ演じた「さだめ」を新家元が心をこめて勤め、あたたかい拍手がおくられました。

竹本越道・鶴澤友路伝統文化ボーラ賞

受賞記念演奏会

5月23日

なんと二人合わせて百六十九歳。女流義太夫の魅力を堪能させて下さいました。顔を上気させ、にこにこ帰宅されるお客様に関係者はほっと一息です。

上野広小路亭「じよぎ」公演スタート

永谷商事社長永谷浩司様の格別の計らいで中堅・若手の修業の場として、上野広小路亭で隔月二日ずつの定期公演が決まりました。第一回は六月一日・二日でした。全員が出演者であり、スタッフでもあるという意識のもとに、皆で力を合わせ、助け合って長く続けて行けますよう努力いたします。

よろしくお願い申し上げます。

年内の予定 8月1日・2日

10月1日・2日

12月1日・2日

いずれも開演は六時半です。

五十期を迎えた義太夫教室

今年度より新たに三学期に分け、各期ごとに講習を受けられるように致しました。人数は少ないながらも大変熱心な受講態度です。

只今一二期受講申し込み受付中!

祖先祭のお知らせ

9月15日(月・敬老の日)午前11時より両国回向院において開催いたします。

〈新人紹介〉

六月二十二日オーディションが行なわれ、野澤喜左衛門門人太田博子さんが正会員として、野澤喜恵博となりました。八月若手勉強会で初舞台を踏みます。よろしくお願いいたします。

〈新職員紹介〉

当事務局秋山寿美子さんが三月三十一日をもって退職され、松田千花子さんが新しく入られました。A型のみずがめ座です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

松田 アンノ野崎村の「ろ」っていうのは：「くち(口)」です。

松田 エツとお、それって何ですか？

技芸員の平均年齢も若返ってます。仲良く協会をもちたてて行きましようね。

〈寄付〉

- 松井一男様 三万円
- 野田勝也様 二万円
- 大日本素義会菅野光雄様 三万円

〈お知らせ〉

☆第二回長月会一竹本越道一門勉強会一

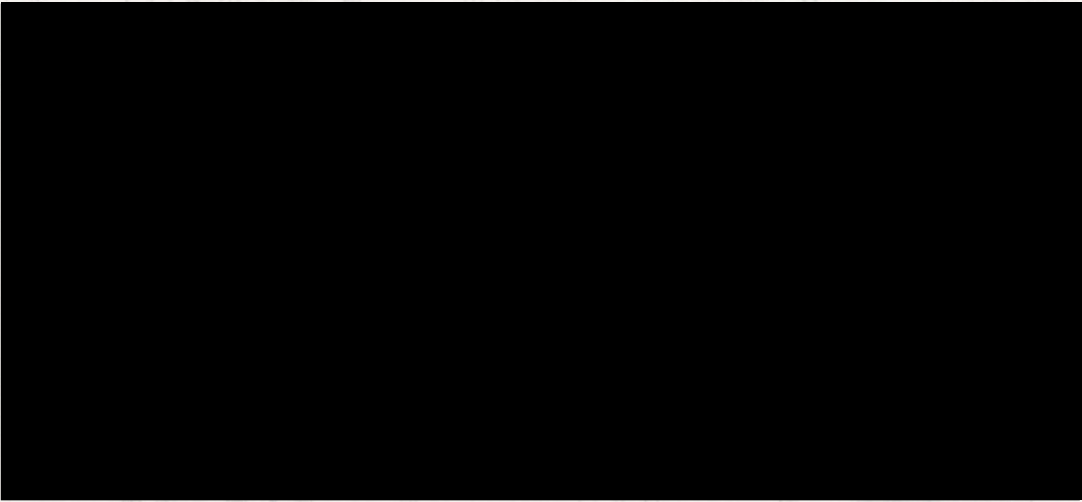
平成9年9月26日(金)6時15分開演

\* 広小路亭 \* 入場料二千円

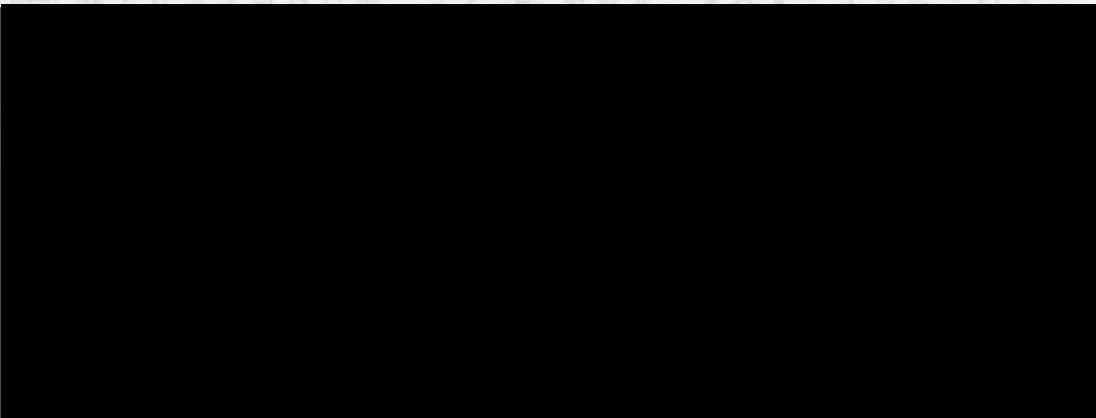
後援 (社)義太夫協会

助成 (財)新日鐵文化財団

新入会員御紹介(五十音順・敬称略)



住所(住居表示)等変更

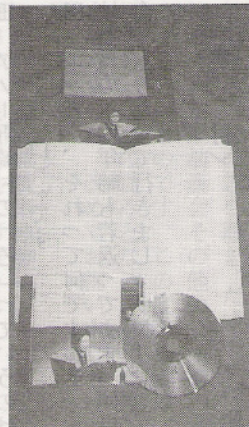


〈寄〉 贈

安部三弦店安部重蔵様 三折用三味線袋5組  
天神袋 多数

コールドレック・キミ様 著書2冊

昨年発行の会報63号で紹介いたしました  
学術書『Women's Gidayu and the Japanese  
Theatre Tradition』(CD付き)をお送りい  
ただきました。彼女の研究の集大成ともいえ  
る力作です。  
(写真)



編集後記

暑中お見舞い申し上げます。

・事務局に新機種のファックス導入。従来の  
ものは編集部Kさん宅で晩年を送ります。  
(そのKさんからファックスで来るはずの  
原稿が速達で届きました。使いこなせるの  
でしょうか?? K2)

・もと本牧亭の程近く広小路亭旗揚げ公演は  
まずまずの入り。上野を懐しむお客様の中  
には、「あの頃のある店に又寄ってくかな  
ア」という声も。出演者にも本牧亭を知ら  
ぬ世代ができていますが上野の「じよぎ」  
公演を定着させるため、心を一つにがんば  
ります。